

研究部門

受賞者： ^{たいら}平 ^{のりお}則夫 (84 歳)

いわき市立総合磐城共立病院 病院事業管理者



平則夫氏は、昭和 31 年東北大学医学部卒業。同大学院で医学博士の学位を取得後、同大学医学部で助手に任用。その後、講師、助教授を経て教授に昇任、平成 7 年に教授を退官して東北大学名誉教授の称号を授与されるまで、一貫して薬理学の教育、研究に尽力し、医学の発展と後進の育成に多くの業績を上げた。東北大学のみならず日本の教育、研究行政にも多大な貢献をした。

特に循環薬理学分野における研究は顕著であり、世界で初めて独自の測定機器と標本を開発し、房室結節の機能の研究で他の追随を許さない域に達した。

その他、カルシウム拮抗薬、強心薬の研究等で業績を上げ、高血圧・虚血性心疾患患者の治療法の普及に貢献した。

カリウムチャネル開口という研究成果は、わが国発のユニークな新薬の上市につながり、虚血性心疾患の治療薬として世界中に用いられている。狭心症患者が服用したり、心筋梗塞時に静脈内注射等で用いることにより、多くの人命が救われ、患者の生活改善に大いに寄与している。

東北大学では医学部長、同大学院医学系研究科長を歴任。文部省学位授与機構では、審査研究部教授・部長として機構の管理運営と発展に取り組み、学会や文部行政関連の委員会のリーダーとして活躍した。世界の大学教育・研究、医学・薬学分野、医療福祉の発展に貢献した。

平成 23 年から現在に至るまで、いわき市病院事業管理者として、いわき市立総合磐城共立病院に務めており、平成 26 年にはこれまでの功績により春の叙勲で瑞宝中綬章を受章した。

推薦者： 里見 進 東北大学総長